阿片ハ政府之レヲ輸入スルノミニシテ個人ノ輸入ハ絶對ニ認メサルコト前述ノ如シ

次ニ輸出ニ就テハ生阿片ノ輸出ハ絶對ニ認メス醫藥用阿片ノ輸出ハ在外帝國臣民タル醫師、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ニ於テ調劑用ニ供スル場合ニ限リ駐在帝國官憲ノ證明アルモノニノミ許可セラル

三、阿片密賣買取締

阿片ノ密賣買取締ニ關シテハ內務省之レニ當リ各地方長官ヲ督勵シ醫藥用阿片販賣人其ノ他關係當事者ニ注意ヲ加フル等臨機ノ處置ヲ採リ一方大藏、遞信兩省ト協力シテ常ニ之レカ取締ノ勵行ヲ期シタレ共尙ホ法規ノ不備ニ乘セラルルノ恐レアリタルヲ以テ前記ノ如ク大正八年(一九一九年)四月阿片法ヲ改正シ益々其ノ取締ヲ嚴ニシ實効ヲ期シ居レリ

四、麻藥類ノ取締

モルヒネ鹽、コカイン鹽ハ明治二十二年(一八八九年)三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則ニヨリ藥劑師又ハ藥劑師ヲ雇傭セル藥種商ニノミ取扱ハシメ且ツ藥品營業者、醫師、齒科醫師、獸醫以外ノ者ノ買入ニ際シテハ證明書ヲ必要トセリ其ノ輸出ニ就テハ大正三年(一九一三年)內務省令第十八號ノ規定ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ要スルモノニシテ就中滿洲、支那方面ヘノ輸出ニ就テハ特ニ其ノ取扱ヲ嚴ニシ醫療上正當ナル需要ナリトノ官憲ノ證明アリ且ツ政府ニ於テ確認シタルモノニ非サレハ數量ノ如何ヲ問ハス一切其ノ輸出ヲ許可セサル方針ヲ採リ大正七年(一九一八年)三月右省令ノ改正ニ際シテハ保稅倉庫又ハ假置場藏置品ノ積戻ニ對シテモ內務大臣ノ許可ヲ要スルコトヽセリ

內務省令第十八號ハモト歐洲戰亂ノ結果醫藥品ノ輸入杜絕シタルヲ以テ我國內醫療藥品ノ減少ヲ防止センカ爲メニ設ケラレタルモノニシテ輸入ニ關シテハ何等ノ規定ナカリシカ故ニ大正九年(一九二〇年)十二月內務省令第四十一號ヲ以テ「モルヒネ」「コカイン」及其鹽類取締ニ關スル件ヲ公布シ翌十年(一九二一年)一月一日ヨリ實施セリ

右省令公布ト同時ニ特ニ支那方面ヘノ輸出ニ對シテハ各稅關鐵道局荷物取扱所及郵便局ニ於ケル取締ノ勵行ニ注意シ各地方警察官憲ヲシテ常ニ當事者ノ營業ニ關シ嚴密ナル監視ヲ加フル等ノ手段ヲ講シ又大正十二年(一九二三年)一月第四回國際聯盟阿片委員會ノ決議ヲ經タル密輸出入事件ニ關スル情報交換ノ件ニ就テモ直チニ贊成シ爾來密輸出入ニ從事スルモノヽ行動、動靜ニ關スル情報ヲモ交換スル等直接間接密輸出入ノ禁遏ニ努メ居レリ又輸入ニ就テハ率先證明書制度ヲ採用シ大正十年(一九二一年)十一月ヨリ輸入許可證ト同時ニ英文輸入證明證ヲ發給シ以テ輸出地官憲ノ考査ニ便シ居レリ

工場衛生

一、沿革

第一期　工場法制定準備以前

工場衛生ニ關スル事務ハ內務大臣ノ所管ニシテ內務大臣ハ衛生局ヲシテ主掌セシメタルハ官制ニ當時明記サレ居ル所ナリ日清戰役（一八九四年一八九五年）ノ終了ト共ニ我國ニ於ケル近代產業ハ急激ナル發達ヲ見ルニ至リ纖維工場ニ於テハ主トシテ若干ノ女子ヲ職工トシテ使用シタル結果女工ノ待遇問題ハ社會ノ注目ヲ引キ又女工ノ健康狀態ニ留意スヘキ必要ニ迫ラレ警察的ノ目的ヲ以テ明治三十年（一八九七年）ニ內務大臣ハ十人以上ヲ使用スル工場主ニ向ヒ左ニ掲ル者カ發生シタル時ハ其ノ氏名、年齡、性、病名等ヲ報知スヘク命シタリ

一、死亡者

二、疾病ノ爲解雇シタル者

三、三十日以上休業受療ノ者

斯クシテ工場衛生ニ關スル監督ノ端ハ開カル、ニ至レリ

第二期　工場法制定準備時代

工場法ハ明治十五年（一八八二年）ニ政府ハ農商務省ヲシテ立案セシメタルモ立法セラル、ニ至ラスシテ數年ヲ經過シタリ明治三十年（一八九七年）頃ヨリ工業ノ發達ト共ニ工場法制定ノ必要ヲ感シ基礎資料トシテ我國產業ノ實況、職工ニ關スル實況ヲ明ニセンカ爲メ明治三十四年（一九〇一年）農商務省ニ特別職員ヲ設ケタリ當該職員中醫師ノ參加アリテ工場衛生ノ調査ハ具體的ニ開始サルルニ至レルモ明治三十七年（一九〇四年）日露戰爭ノ發生ト共ニ調査ハ全部中止スルノ已ムナキ狀態トナレリ日露戰役終了後一二ヶ年ニシテ工業ハ一層隆盛ヲ加ヘ工業國民ト健康トノ關係極メテ密接トナリタル爲メ內務省ハ衛生局ヲシテ工場ノ衛生狀況ノ調査ヲナサシムル事トナセリ

斯クシテ工業ノ隆盛ト共ニ工場法ノ必要ハ朝野ニ唱ヘラレ明治四十三年（一九一〇年）農商務省ハ法案ヲ得ンカ爲メ醫師ヲシテ工場衛生ノ實況ノ調査ヲ爲サシメ立案ニ參加セシメ明治四十四年（一九一一年）工場法ハ議會ノ協贊ヲ得テ公布サル、ニ至レリ

第三期　工場法制定後

工場法ハ公布セラレタリト雖モ政變相次イテ起リ爲メニ大正四年（一九一五年）ニ至リ大正五年（一九一六年）ヨリ初メテ實施スヘク決定セラレタリ

此ノ間工場衛生ハ事實ニ於テハ顧ラレス農商務省ニ於テ僅ニ其ノ調査ヲ繼續シ居タルニ止リタルト雖モ此

ノ期間ニ於テハ我カ國織維工場ニ於ケル女工ノ死亡率並ニ結核ノ狀態ハ明ニセラレ工場法實施期促進ニ効果ヲ爲シタリ

工場法實施決定ト共ニ特殊監督官吏ノ設置トナリ此ノ特殊監督官吏中ニ必ス醫師ヲ任命スルコトトナリ是ニ於テ工場衛生ハ面目一新更ニ陣容ヲ整フルニ至レリ

工場法ハ農商務大臣ノ管理ノ下ニ實施セラレ醫師ノ工場監督官吏ハ工場衛生ノ調査指揮監督ニ從事スルニ至レリ大正十一年(一九二二年)勞働行政統一ノ爲メ工場法ハ內務大臣ノ管理ニ移リタレトモ工場衛生發達ニ關スル方針ハ變ルコトナク今日ニ及ヘリ

二、工場衛生ニ關スル法規

A 工場法ニ基クモノ

1、適用範圍

集團ニ基ク衛生上ノ危險並ニ事業ノ性質ヨリ來ル衛生上ノ危險ヲ保護スルヲ目的トシ左ノ二種ニ工場法ハ適用サレタリ

a 常時職工十人以上ヲ使用スル工場

b 事業ノ性質危險又ハ衛生上有害ナル虞アル工場

2、年齡ノ制限

國際勞働會議ノ決議ヲ尊重シ最低年齡ヲ十四歲ト定メタルモ我カ國ノ教育機關ノ狀況ヨリ十二歲以上ニシテ義務教育ヲ終リタル者ハ工場ニ就業シ得ルコトヲ許サレタリ

3、勞働時間ノ制限

女子並ニ十六歲未滿ノ者ニハ就業時間ノ最長ヲ十一時間トシ內一時間ハ休憩時間トス是ヲ以テ實際ノ勞働時間ハ十時間ヲ最長トス

4、深夜業ノ禁止

女子並ニ十六歲未滿ノ者ノ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル七時間ノ就業ハ禁止サルルモ事情ニヨリテハ午後十時ヲ午後十一時トナシ得ルノ例外アリ但實施マテ三ケ年間ノ猶豫アリ

5、女子並ニ十六歲未滿者ノ就業シ得サル作業

a、女子並ニ十六歲未滿者ノ就業禁止

(イ) 機械的危險ノ著シキ作業

(ロ) 衛生上著シク有害ナル作業

b 十六歲未滿ノ者ノ就業禁止

有毒物並ニ發火性引火性爆發性危險物ノ取扱ヲ爲ス作業

6、病者ノ就業制限

集團ニ對スル危險ヲ防止シ罹病者ノ健康ヲ保全センカ爲ニ左ノ制限ヲ加ヘタリ

a 精神病者(重大ナル)傳染性疾患者ハ就業禁止

b 傳染性外皮病患者ハ醫療處置ニヨリ傳染ノ虞レナキコトヲ醫師保證シタル場合ノ外就業禁止

c 重症者又ハ回復患者ハ醫師カ認許シタル作業ノ外就業禁止

醫師タル工場監督官吏ハ必要ニ應シテ傳染性疾患ニ罹レル職工ヲ檢診スルノ權限ヲ有ス

7、姙婦、産婦ノ就業制限

産婦ハ法則トシテ出産後五週間ハ就業ヲ禁止サルルモ最後ノ二週間ハ醫師ノ認許シタル條件ノ下ニ就業ハ許サルルコトヲ得

姙婦ニ付キテハ目下制限ナキモ近ク姙婦ノ就業制限ハ生兒授乳時間ノ設定、産婦就業禁止期間ノ延長ト共ニ實施サルル見込ナリ

8、設備施設改善

工場衛生上必要ナル設備施設ノ新設並ニ改善ヲ工場主ニ命スルノ權限ヲ行政官廳ハ保有ス

近ク必要ナル標準命令ヲ内務大臣ハ發令スルノ見込ナリ

9、業務上負傷疾病ノ扶助

職工ニシテ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者アル時ハ工場主ハ自己ノ費用ヲ以テ治療スルカ又ハ治療ニ必要ナル金額全部ヲ負擔シ相當ノ休業ヲ職工ニ與フルノ義務ヲ有ス

業務上ノ負傷疾病カ治癒シタル場合ニハ職工不具廢疾トナリタル時ハ工場主ハ一時金ヲ職工ニ支拂フノ義務ヲ有ス

10、地方監督官廳ハ法規實施ノ爲メ前ニ掲ケタル趣旨ヲ體シ命令ヲ發シタリ

B 關係法規ニ基クモノ

1、傳染病豫防法

ペスト、コレラ、チフス等十種ノ急性傳染病發生シ流行ノ虞アル時ハ傳染病豫防法ニ基キテ處理セラルト雖モ常時ノ豫防ハ工場法施行官ノ擔任指導ニ俟ツモノトス

2、結核豫防法及「トラホーム」豫防法上記二法律ニハ工場ノ施設其ノ他ニ關シ規定スル所アリ

三、監督

A 組織

1、監督官吏トシテノ醫師

工場法ニハ衛生ニ關スル事項多ク是レカ實施ニハ醫師ヲ必要トスルヲ以テ工場法施行ノ衝ニ當ル行政官

廳ニハ必ス一名以上醫師タル工場監督官吏配置サル

2、現在組織

工場ノ直接監督ハ地方長官ノ主管ナル所ナリ

中央機關トシテハ內務大臣ニシテ事務ハ社會局長官ノ掌ル所タリ內務大臣並ニ地方長官ハ委任サレタル權限內ニ於テ命令又ハ訓令ヲ發シ得ルナリ

內務大臣並ニ地方長官ニハ各種ノ專門家ヨリ任命サレタル工場監督官吏附隨シ實務ニ從事シツツアリ

地ニ於ケル工場衞生ノ指導ハ醫師タル地方工場監督官吏ノ指導ニ依リテ行ハレ之カ督勵ハ醫師タル中央工場監督官吏ノ爲ス所ナリ

3、現在工場監督官吏數

專門別	中央 監督官	中央 監督官補	地方 監督官	地方 監督官補	
事務	三	四	一九	一一七	一四三
衞生	二	一	七	六二	七二
機械	一	二	六	五八	六四
化學	一	一	一	一七	二〇
染織				一九	二〇

製絲	建築	電氣	其他	合計
七	一			
九				
三四			一	
二六一	一〇	七	一	四
三一一	一〇	七	三	四

醫師タル工場監督官吏ハ合計七十二人ナリ

B 監督ノ方針

工場衞生監督ノ方針ハ不良ナル設備施設ヲ摘發シ所罰スルヲ主ナル目的トセス改善指導督勵ヲ主眼トシツツアリ

醫師タル工場監督官吏ハ工場ニ關スル衞生狀況ノ實際ヲ調査スルト共ニ工場主ニ設備施設ノ改良ヲ勸說シ一面職工ニ工場衞生上ノ設備ヲ充分ニ利用シ効果ヲ擧ケシムルヘク常ニ說得ニ務メツツアリ

監督ノ方法トシテハ臨檢ト報告トニヨルト雖モ工場數多キヲ以テ容易ニ普ク親シク臨檢スルコト不可能ナリ工場主ヨリノ報告ハ法規ニ基クモノ左ノ二種ナリ

a 災害アリテ死亡者又ハ重傷者ヲ生シタル時ハ災害ノ原因、場所時刻罹災者ノ氏名、年齡、同職名、死傷ノ狀況ヲ記載シタル即時報告

b　五十人以上ヲ使用スル工場ニ於テ三日以上休業受療シタル者並ニ死亡者アリタル時ハ氏名年齢職名負傷ノ部位、疾病ノ種類等ヲ記載シ一ヶ月分ヲ取リ纒メタル月報

右ノ外必要アリタル時ハ臨時工場主ヨリ必要ナル報告ヲ爲サシメツヽアリ

C　地方衛生官吏トノ關係

地方衛生官吏モ亦地方長官ニ屬シ傳染病豫防及ヒ一般保健衛生事務ニ從事シ工場内ニ於テハ勞働者ニ關スル衛生事務ノ一部ヲ擔當シツツアリ

醫師タル工場監督官吏ノ職權ハ工場ノ設備施設工場内ニ於ケル勞働者ノ衛生ニ止マリ工場外ノ勞働者ノ衛生ニ及ハサルノ弊アルヲ以テ醫師タル工場監督官吏ト地方衛生官吏ト平素常ニ連絡ヲ保チテ工場内外相呼應シ工場衛生ノ發達ニ務メツツアリ

地方長官ハ此ノ事情ニ鑑ミ二種ノ職務ヲシテ相互ニ兼務セシメタルモノ少ナカラス斯ル兼務ハ工場衛生ノ監督指導ノ上ニ効果少ナカラス

D　協力機關トシテノ民間團體

工場衛生ニ關スル監督方針ハ前述ノ如ク助長指導改善ニアルヲ以テ民間ニ於テモ亦有志相集リテ此主旨ヲ徹底セシメンカ爲メ各種ノ團體ヲ組織シ工場ノ設備施設ノ改良發達勞働者ノ福利增進能率增進等ノ爲メ研究會展覽會講演會等ヲ開催シ或ハ專門家ノ教ヲ乞ヒ或ハ工場ノ見學ヲ行ヒ又災害豫防、衛生思想普及ノ宣

傳ヲ爲ス等工場衛生ノ發達ニ資スルコト大ナリ

斯ル團體ノ事業ニ對シ工場監督官吏ハ其ノ目的遂行ノ爲メ援助ヲナシツツアリ

團體ノ數ハ全國ヲ通シテ百數十ニ達シタリ團體ノ性質ニヨリテ分類スレハ左ノ如シ

1、地方行政官廳管内ニテ成立セルモノ

a、工場會

工場主ノ團體ニシテ工場法ノ圓滿ナル施行ヲ主ナル目的トス

b、工場衛生會

工場主並ニ工場醫ノ連合團體ニシテ工場衛生ノ發達ヲ目的トス

c、工場醫會

工場醫ノ集團ニシテ工場衛生ノ研究ヲ主ナル目的トス

2、全國的ノモノ

日本安全協會アリテ災害防止健康保持ヲ目的トシテ活動シツツアルノ外未タ工場衛生ヲ目的トスル他ノ團體ナシ日本安全協會ハ有志家ノ組織スル所タリ

3、勞働者ノ團體

既在勞働組合ハ其ノ綱領中工場衛生ニ關スルモノヲ擧ルト雖モ未タ効果ヲ擧クルニ至ラス

四、現況

A 工場數並ニ職工數

種類	工場數	職工數 男	職工數 女	職工數 計
十五人以上ノ職工ヲ有スル工場				
染織工場	九、七二六	一六八、六四三	七四九、三五四	九一七、九九七
機械工場	二、八四四	一八三、四六六	一二、七八二	一九六、二四八
化學工場	二、六六一	一一二、〇二九	四八、〇六〇	一六〇、〇八九
飲食物工場	一、三二八	三六、六六九	一二、六五八	四九、三二七
雜工場	二、六九三	七七、九二二	三一、六一六	一〇九、五三八
特別工場	一二五	九、五三九	四六六	一〇、〇〇五
十五歳未滿ノ職工ヲ使用シ事業性質危險又ハ有害ナル工場	七、二一六	二七、六三二	五、六四八	三三、二八〇
合計	二六、五九三	六一五、九〇〇	八六〇、五八四	一、四七六、四八四

B 特質

1、我カ國ニ於ケル近代工業ハ染織工業先ツ發達シ其ノ職工ハ主トシテ女子ヲ用ヒタルヲ以テ全職工中女子ノ數少カラス

2、女子職工ハ大部分農村ノ婦女子ナルヲ以テ女工ヲ收容スヘキ寄宿舍多ク又發達セリ

3、我カ國近代工業ノ發達ハ半世紀ヲ超ユルコト僅カニ數年ナルヲ以テ一面ニ大工業ト共ニ一面ニ尙數多ノ手工業ノ存スルノ事實アリ要スルニ過渡時代ナレハ工場衞生ノ觀察ニハ用意ノ周到ヲ特ニ必要トス

參考トシテ寄宿舍ノ數並ニ收容セル職工數ヲ示セハ左ノ如シ

寄宿舍ヲ有スル工場數	寄宿職工數 在寄 男	寄宿職工數 在寄 女	寄宿職工數 在寄 計
九、二九七	一〇四、七六九	五〇六、九五一	六一一、七二〇
全工場ノ三五%	男工ノ一七%	女工ノ五八%	全職工ノ四二%

C 工場ノ狀況

我カ國ハ過渡ノ時代ナルヲ以テ一方構造設備施設充分ニ整頓シ歐米ノ優良工場ニ比シテ劣ラサルモノ多數アルト共ニ他方ニ普通住居ヲ改造シ作業場トナシタルカ如キ工場トシテ不適當ノモノモ存スサレト大勢トシテハ工場ノ併合資本ノ併合ト共ニ工場ハ漸次進歩シツヽアリ工場內ノ換氣溫度採光其ノ他工場衞生上優良ナルモノ少ナカラス

工場ニ附屬スル職工ニ對スル福利增進施設大ニ見ルヘキモノアリ

浴場、食堂、運動場、倶樂部、食品廉賣所等ヲ設ケ其ノ設備モ亦相當ニ良好ナリ

D　寄宿舍ノ狀況

大工場ニ附屬セルモノハ木造ナレトモ設備良好ナルモノ多シ構造ハ通常二階建ニシテ各室ノ採光、換氣等ハ充分ニ注意ヲ拂ハレ給水、便所、食堂等ノ設備施設整ヘルモノ多シ浴場ヲ缺ク寄宿舍殆トナシ寄宿內ノ溫室法ハ未タ中央溫室法ヲ用ヒサルモノ多シ小工場ニ附屬セルモノハ寄宿舍モ小ニシテ從ツテ收容人員モ少ナク多クハ工場主宅ノ一部ヲ寄宿舍トシテ用フルモノ多シ寄宿內ハ一人當リ容積ニ相當ナリ又食料ハ從來ハ非難アリタリト雖モ近時ハ大ニ改良サルルニ至レリ家族ヲ有スル職工ヲ收容スル爲メニ大工場ノ職工ノ住宅ヲ有スルモノ多シ社宅ハ多ク木造ニシテ平屋又ハ二階屋ニシテ一戸二室又ハ三室以上ニシテ專用ノ炊事場便所ヲ附ス

E　疾病率並ニ疾病ノ種類

疾病率ニ付キテハ工場ヨリノ報告アリテ推察シ得ヘキト雖モ未タ勞働保險ノ實施ナキ我カ國ニ於テハ正確ナル數字ヲ發表シ得ルノ時期ニ達シ居ラサルナリ從ツテ各業間ノ比較モ明ナラス然レトモ我カ國職工ノ疾病率ハ歐米諸國ノソレニ比シテ著シク不良ナリトハ信スル能ハサル所ナリ

疾病ノ種類ニ付キテモ亦正確ナルコトハ發表シ能ハサルモ各種工業ヲ通シテ最モ多キハ消化器系ノ疾病ニシテ是レニ次クニ呼吸器系疾病ナリトス

F　業務上ノ負傷疾病

業務上ノ負傷ニ付キテハ業務トノ因果關係殆ト常ニ明瞭ナリト雖モ疾病ニアリテハ因果關係明ナラサル場合多シ是レヲ以テ法規上トシテモ實際上トシテモ業務上ノ疾病タルヤ否ヤハ個々ノ場合ニ於テ決定スルコトニ定メラレ居レリ然レトモ行政官廳ニ於テハ內規ヲ有シ其ノ內規タルヤ業務上ノ疾病ノ種類ハ少ナシトナリ居レリ

斯ル事由ニ基キ業務上ノ疾病ノ報告少ナキハ止ムヲ得サル所タリ工業中毒ハ不明ノ場合多ク是ニ關シテ目下研究調査中ナリ

G　身體檢査

1、採用時ノ身體檢査

工場中大ナルモノニ於テハ採用時ニ職工應募者ノ身體ヲ檢査シ職業ニ堪フル旨醫師ノ認メタル後初メテ採用スルヲ常例トス

2、常時ノ健康監視

女工ヲ多數ニ使用スル大工場ニ於テハ女工ノ健康狀態ヲ常時ニ監視シ疾病ノ早期發見、體力ノ消長ニ注意セルモノアリ。其ノ方法トシテハ一ケ年二回定期的身體檢査ヲ行フモノアリ又一ケ年數回簡易ナル健康診斷ヲ行フアリ、或ハ毎月一回檢溫スルアリ若シクハ是等ヲ適當ニ併用セルモノアリ

H 治療機關

工場附屬ノ治療機關ハ歐米ニ比シ發達シ居レリ數百人ヲ收容スル寄宿舍ヲ有スル工場ニ於テハ常ニ病院ヲ有シ又數百人ヲ使用シ寄宿舍ナキ工場ニ於テモ治療所ヲ有スルヲ通常トス治療所病院ニハ專任ノ醫師藥劑師看護婦アリテ治療ニ從事シツヽアリ

治療費ハ受療職工ニシテ一部ノミヲ負擔セシムルヲ通例トシ工場主ヨリ多大ノ補助アリ健康保險實施後トハ雖モ此ノ治療機關組織ハ一層ニ發達スヘシ

同一事業主ノ管理セル工場ノ病院ハ其ノ事業ノ中央部ニテ統一管理セントスルノ傾向アルカ如ク大阪ニ本社ヲ有スル東洋紡績株式會社ニテハ假ニ統一ヲ實行シ全工場ニ附屬セル病院ヲ統一シ本社ニ衞生課ヲ置キ醫師ヲシテ課長タラシメ治療ノ監督醫員ノ學術指導材料ノ撰擇等ヲ行ハシメ併セテ工場並ニ寄宿舍ノ衞生ノ研究調査ヲ行ハシメ多大ノ効果ヲ擧ケツツアリ斯ル管理法ハ恐ラク他ノ事業主モ亦模スルニ至ラン

五、研究機關

A 官立機關

工場衞生ノ發達ヲ期センカ爲メニハ特別ニ調査研究ヲ要シ監督官吏ノヨク爲シ能ハサル所アルヲ以テ大正七年(一八一九年)別ニ工場ノ危害豫防並ニ工場衞生調査ノ爲メ特ニ職員ヲ置キ專ラ調査ニ從事セシムルコトトセリ

調査方針トシテ工場並ニ寄宿舍ノ設備施設ノ一般的標準並ニ有害工場ノ設備施設ノ標準ヲ得ントスルニ在リ

現在職員左ノ如シ

	專門技師	技手	計
衞生	二	一	三
機械	二	二	三
化學	一	二	三
計	四	五	九

調査濟ノモノヲ擧クレハ左ノ如シ

製絲及染織工場寄宿舍現況　笹村鉞雄

職業ノ身體ニ及ホス影響　鯉沼茆吾

硝子職工ニ關スル調査　古瀬安俊

蓄電池工場ニ於ケル鉛中毒　鯉沼茆吾

鉛工ノ鉛中毒　櫻田儀七

外三十二種

B 民間研究機關

民間ニハ僅ニ一研究所ヲ算スルノミニシテ岡山縣倉敷町大原勞働科學研究所ニシテ工場衛生ノ研究ヲ行ヒツツアリ

工場醫會等ニテ臨時特ニ調査サルル場合アリ

C 既往ノ文獻

1 工場衛生一般ニ關スルモノ

紡績工業ニ於ケル寄宿女工ノ衛生狀態　渡邊照

工人ノ生計及榮養ニ關スル研究　稲葉良太郎　小泉親彦

女工ノ衛生學的觀察　石原修

紡績女工ノ徹夜業ニ就テ　宇多弘道

高溫中ニ勞働スルモノノ心臟　三浦謹之助

勞働ト榮養　坂本助之進

外五十種

2、中毒並ニ職業病ニ關スルモノ

工業的ピリリン酸中毒ニ就テ　小泉親彦

製糸工女ノ職業的濕疹ニ就テ　長井新藏

硝子職工ノ身體發育異變及疾病梗概　古瀬安俊

油負ノ研究　戸塚隆三郎

外二十三種

3、結核及其ノ他ノ傳染病ニ關スルモノ

紡績業ト肺結核　岡崎龜彦

女工ト結核　石原修

外十二種

4、塵埃ニ關スルモノ

石工ノ肺ニ就テ　荒井恒雄

各種塵埃ノ喰菌(Phagotosis)作用ニ及ホス影響　西田稲城

外六種

5、疲勞及能率ニ關スルモノ

日本人ノ體格ト其ノ作業能率　野村禧一

工場能率ト浪費時間　古瀬安俊
勞働疲勞ト作業能率　富士貞吉
外四種

6、負傷ニ關スルモノ
職工負傷ト時間トノ關係　服部清一
鐵道工場ニ於ケル職工ノ負傷ニ關スル數字的研究　高松泰三
外六種

7、視器聽器ニ關スルモノ
職業上ノ難聽ニツイテ　中田弓吉
過激ナル音響ニヨル聽器障害ノ實驗的病理研究並ニ生理的意義　星野貞次
鍛冶職工ニ發シタル白內障ニ就テ　山田義雄
工場內ニ於ケル瓦斯漏泄ニヨル眼外傷　奥謹一
外十九種

8、齒牙ニ關スルモノ
六種

鑛山衛生

內務省社會局

一、沿革

第一期　工場法施行以前

明治三十三年(一八九〇年)ノ立法ニヨリ左ノ三項決定セラレタリ

a　鑛夫ノ生命及衛生ノ保護ヲ目的トスル鑛業設備ノ取締

b　業務上ノ負傷疾病ニ對スル扶助

c　就業ノ制限

二ケ年ヲ經タル明治三十五年(一九八二年)ニ鑛業警察規則ハ制定サレタリト雖モ其ノ內容ハ災害ノ防止ヲ主ナル目的トセルヲ以テ鑛山衛生ニ關スルモノ極メテ少ナシ

業務上ノ負傷疾病ニ對スル扶助ニ關シテハ業務主ヲシテ規定ヲ作製セシメ官廳ハ之ヲ許可スルニ止マレリ

就業制限ニ關シテハ其ノ內容ヲ農商務大臣ニ委任シタルモ農商務大臣ハ何等就業制限ノ命令ヲ發セサリシヲ以テ全然空文ニ終レリ

第二期　工場法施行後

工場法施行セラレントスルヤ鑛山衛生モ亦面目ヲ一新スルノ機會ヲ得鑛業警察規則モ改正サレ衛生ニ關スル條項加ヘラレ又別ニ鑛夫ノ保護ヲ目的トスル鑛夫勞役扶助規則ハ新ニ制定セラレ工場法ノ實施ト共ニ實行ノ期ニ入リタリ

鑛山衛生ニ關ス規定ハ大體ニ於テ工場法ノソレニ近似シタル程度ニ至レリ

三、法　規

A　鑛業法規適用ノ範圍

工場法トハ大ニ異リ鑛業ヲナスニ於テハ鑛夫一人無クトモ法規ノ適用ヲ受ク

B　鑛夫勞役扶助規則ニ關スルモノ

1、年齢ノ制限

2、勞働時間ノ制限

3、女子並ニ十六歳未滿ノモノノ就業制限

4、業務上ノ負傷疾病ノ扶助

（1乃至5ハ其ノ內容工場法ノソレニ全ク同シ）

5、病者ノ制限

工場法ト異ルハ醫師タル鑛山監督官吏ニ傳染性疾病ノ疑ヲ有スル鑛夫ノ檢診權ナキ點ナリ

6、深夜業ノ制限

工場ト全ク異リテ女子並ニ十六歳未滿ノ者ニ對シ深夜ノ勞働ヲ許シ居レリ

（6、7、坑內ニ於ケル少年女子ノ勞働禁止、一般鑛夫ノ坑內勞働時間制限ニ付キテハ目下法規立案中ナリ）

C　鑛業警察規則ニ關スルモノ

設備施設ノ標準並ニ改造ニ關スル命令權ニ就キテ規定アリ

D　關係法規ニ關スルモノ

工場衛生ノ場合ニ全然同シ

三、監　督

A　組織

1、醫師トシテ鑛山監督官吏

一行政區劃ニハ必ス一名以上ノ醫師タル鑛山監督官吏配置サルコト工場衛生ノ場合ニ同シ

2、現在組織

鑛山衛生取締上鑛夫ニ關スルモノハ內務大臣ノ管理ニ屬シ設備施設ニ關スルモノハ農林大臣ノ管理ニ屬ス。地方實施機關ハ地方廳ニ非スシテ別ニ獨立セル五個ノ鑛山監督署アリテ我國ヲ五分シ鑛山衛生ノ監督ノ任ニ當リ兩大臣ノ指揮ヲ受ク

中央機關トシテハ社會局並ニ農林省鑛山局其ノ任ニ當ル

3、現在職員

所屬	專門	中央 監督官	中央 監督官補	地方（鑛山監督署） 監督官	地方（鑛山監督署） 監督官補	計
內務省	衛生事務	一	二	九	一三	二五
農林省	採鑛	一	一	五	七	四三
計		三	四	二六	二二	七五

B 監督方針

指導改善助長ヲ主眼トシテ徒ニ摘發所罰ヲ事ト爲サヽルハ工場衛生ノ場合ニ同シ

監督方法モ亦工場ニ同シク臨檢ト報告ニヨルト雖モ臨檢ハ事實ニ於テハ大鑛山ニ止マルノ狀況タリ法規ニ基ク報告ハ工場衛生トノ間ニ多少ノ相異アリ

a、鑛山ニ於テ重大ナル災害アリタルトキハ災害ノ模樣、死傷者ノ數ヲ記載シ即時報告セシム

b、業務上ノ負傷者ニ付キテハ坑內表別、原因別、男女別、死亡、重傷、輕傷別ニ一ケ月間ノ罹災者ヲ取リ纒メ月報セシム

c、死亡者、負傷疾病者ノ爲メ解雇者、三十日以上休業受療者アリタル時ハ氏名、年齡、職名、病名等ヲ記載シテ一ケ月間ヲ取リ纒メ月報セシム

d、鑛夫ニシテ三日以上休業受療シタル時ハ疾病種類別、男女別、年齡別ニ患者數ヲ記載シ置キ半年每ニ報告セシム但シ大鑛山ニ限ラル

C 地方衛生官吏トノ關係

醫師タル鑛山官吏ハ鑛山監督署ニ屬シ地方衛生官吏ハ地方長官ニ屬シ二者所屬ヲ異ニスルト雖モ常ニ可及的協調シ鑛山衛生ノ發達ニ努力シツツアリ

D 補助機關トシテノ民間團體

工場衛生ノ場合ノ如ク發達シ居ラス近時北海道炭鑛業者ノ團體ハ鑛山衛生ノ調査ニ盡力シタリ

鑛山醫ノ團體ハ未タ存セス鑛山監督官ハ時々鑛山醫ヲ集合セシメ協議會ヲ開催スルニ過キス

四、現況

A 鑛山數並ニ鑛夫數

（一九二一年調）

種類	鑛山數	鑛夫數表 坑内 男	坑内 女	坑内 計	地 男	地 女	地 計
金屬	三〇九	一八、八八〇	一、〇六六	四五、四二三	二〇、四八四	四、九九三	二六七、六一四
石炭	五三三	一四一、八五九	五〇、六九五	一一、七七四	五三、一三三	二一、九二七	一〇、七六九
石油	一〇三				一〇、七六九	一、〇〇五	
其ノ他	三三	一、六三二	四二	三、九九七	二、〇四六	二七七	
合計	九七八	一六二、三七一	五一、八〇三	三二八、八〇八	八六、四三二	二八、二〇二	

B 特質

1、坑内勞働ハ地表勞働ト醫學的性質ヲ異ニセルニ拘ラス女子少年ノ外勞働時間ニ制限ナシ

2、炭坑坑内ニ約五萬ノ女坑夫就業シツツアリ

此ノ二點ニ關シ社會モ其ノ解決ノ必要ヲ認メルヲ以テ近キ將來ニ解決サルヘシ

C 鑛業狀況

坑内ニ關スル衛生狀況ハ歐米諸國ノ鑛山坑内ニ比シ異ル所ナシ坑内ニ於ケル通風、採光、災害防止等モ時ト共ニ著シク進歩シツツリ

地表ノ作業場ハ工場ニ異ラズ所在地ノ事情作業ノ性質ニヨリテ設備ニ著シク優秀ナルモノ少ナキト共ニ又著シク劣等ノモノナシ

作業場ニ附隨セル職工ノ福利增進施設比較的少ナキハ鑛夫住宅地ニ於ケル福利施設多キ爲ナリ

D 鑛夫住宅

鑛山ニ於テハ作業場ノ附近ニ鑛夫住宅地ヲ設ケ住宅ヲ建テ鑛夫ノ殆ント全部ヲ收容スルヲ通例トス

鑛夫住宅ハ一戸一室ヲ通常トシタリシモ今ヤ一戸二室以上ニ改造サレツツアリ鑛夫住宅地ハ鑛夫數ノ多少ニヨリ村落ノ形ヲナスアリ市街ノ形ヲナスモノモアリ上水下水、食品市場托兒所等各種ノ社會施設ハ相當ニ發達シ居レリ

E 疾病率ト疾病ノ種類

鑛山ハ工場ト異ナリ多クハ市街地ヨリ離レ居リ鑛夫ノ殆ント全部ハ鑛山住宅地ニ居住シ負傷疾病ノ際ハ常ニ鑛山附屬病院ニ赴クヲ以テ疾病報告ヲ基トシテ疾病率負傷率ヲ推算スルモ比較的正確ナル數字ヲ得ヘシ

推算ニヨレハ鑛夫ハ二ケ年ニ一回三日以上休業受療ヲ要スル負傷ヲ受ケ一ケ年ニ一回三日以上休業受療ヲ要スル疾病ニ犯サル、モノノ如シ石炭山ニ勞働スル女鑛夫ノ罹病率高キハ恐ラク石炭山女鑛夫ハ大部分鑛内勞働ニ從事スルノ結果ナルヘシ

疾病ノ種類ヲ見ルニ消化器系ノ疾患最モ多ク呼吸器系ノ疾病是ニ次クハ工場勞働者ニ同シ

結核患者數ハ罹病率ニ正比例スル事實アリ

F　業務上ノ負傷疾病

鑛山ニ於テハ事業ノ性質上業務上ノ負傷多ク其ノ率甚タ高シ疾病ニ付キテハ石炭山ニ於テハ「ニスタグムス」少キハ如何ナル理由ニ基クヤ不明ナリ鑛夫肺勞（マイナフチヂス）炭肺モ相當ニ多數發生スルカ如シ

G　炭坑ニ於ケル十二指腸蟲病

我カ國西部炭田ニハ坑内夫間ニ十二指腸蟲病ノ蔓延セルハ事實ニシテ撲滅ノ方法ヲ講スルノ必要ニ迫ラレ居ルモノナリ

H　身體檢査

大鑛山ニ於テ採用時ニ鑛夫志願者ノ身體ヲ檢査シ採否ヲ決定スルノミニシテ常時ノ監視ヲ行フモノナシ

I　治療機關

鑛山ニ於ケル治療機關ハ發達シ居リテ鑛夫數約三百人ヲ超ユル鑛山ニ於テハ病院ヲ有シ專任ノ醫師藥劑師看護婦ヲ有シ鑛夫並ニ其ノ家族ヲ診療スルヲ通常トス治療費モ鑛業主ノ補助アリテ鑛夫ノ負擔輕シ

鑛山住宅地内ノ姙産婦ノ爲メニ病院ニ助産婦ヲ常置シ鑛山住宅地内産婦ニ低廉ナル費用ニテ合理的助産ヲ爲サシメツヽアル所甚タ多シ西部炭田ニ事業ヲ營ム明治鑛業林式會社ハ所屬炭坑ノ病院ヲスヘテ本社ニテ統一シ鑛山衛生上良好ナル成績ヲ擧ケツヽアルハ工場衛生中ニ述ヘタル東洋紡績會社ノ採レル所ニ同シ

五、研究機關

A　官立機關

鑛山衛生ノ調査研究ハ我カ國ニ於テハ不充分ナルヲ以テ（大正七年）一九一八年是カ研究ニ從事スル專任職員置カレタリ調査ノ方針トシテハ坑内勞働時間制限並ニ坑内女子少年ノ勞働禁止ニ關スル資料ヲ得ンカ爲メ專ラ坑内勞働ト健康トノ關係ヲ明カニスルヲ主ナル目的トシテ研究サレ今ヤ終了ニ近ツキツヽアリ

目下ノ職員左ノ如シ

技師	技手
衛生　一	計　一
調査濟ノモノヲ擧クレハ左ノ如シ	
坑夫ノ死亡原因、死亡命令並ニ就業年數	山本一太郎
鑛夫死亡者ノ年齡階級的觀察	井口哲宗
坑内空氣ニ關スル調査	南俊治

外五種

B 民間研究機關

一個ダニナシ

C 既往ノ文獻

鑛肺ノ研究　原田彦輔

鑛山衛生ニ關スル研究　大西清治

長年月間鑛山坑内ニ勞役セル鑛夫ノ血液　佐藤要人

炭坑ニ十年以上勤續セ鑛坑夫ノ健康狀態調査　百川改治

炭坑夫ノ眼球震盪症　大西克知

鑛夫ノ衛生狀態調査　石原修

坑夫性肺炎　米山彦郎

三池炭坑坑内ノ衛生狀態　田代伊與治

外三十二種

健康保險

内務省社會局

健康保險法ノ要旨左ノ如シ

第一　保險事故

疾病負傷(業務上及業務外ノ場合ヲ含ム)死亡分娩(第一條)

第二　被保險者

甲　强制加入者

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場又ハ事業場ニ使用セラルヽ者但シ勅令ヲ以テ定ムル日傭人夫ノ類及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ヲ除ク(第十三條)

乙　任意加入者

イ　法律列記ノ工業的企業ヲ營ム事業主ハ被保險者タルヘキ者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ其ノ事業ニ使用セラルル者ヲ包括的ニ本保險ニ加入セシムルコトヲ得(第十四條)

ロ　被保險者タル資格消滅前一定期間被保險者タリシ者ハ引續一定期間保險ヲ繼續スルコトヲ得

第三　保險者

甲　政府左記組合ニ屬セサル被保險者ノ保險ヲ行フ（第二十二條）

乙　健康保險組合

イ　「任意設立ノモノ」常時三百人以上ノ被保險者ヲ使用スル事業主ハ被保險者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得（第二十八條第二十九條）

ロ　「强制設立ノモノ」主務大臣ハ常時五百人以上ノ被保險義務者ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得（第三十一條）

第四　保險給付

一　疾病負傷ニ關スル給付

イ　療養、其ノ範圍ハ勅令ヲ以テ定ム

ロ　傷病手當金、業務上ノ傷病ニ付テハ勞務不能ノ日ヨリ業務外ノ傷病ニ付テハ勞務不能第四日目ヨリ四十五條第四十七條）

勞務不能ノ期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ヲ給ス但シ給付ノ期間ニ付テハ法律上ノ制限アリ（第

二　分娩ニ關スル給付

分娩費　二十圓（第五十條）

ロ　出產手當金　分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十（第五十條）

三　死亡ニ關スル給付

埋葬料　報酬日額二十日分但シ最低二十圓（第四十九條）

第五　費用ノ分擔

一　國庫ノ負擔

國庫ハ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス但シ一人當年額二圓ヲ超ユルコトナシ（第七十條）

二　保險料

イ　事業主ト被保險者トハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス（第七十二條）

ロ　保險料ノ滯納ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス（第十一條）

第六　權利ノ救濟機關

一　保險給付ニ關スル救濟（第八十條）

第一次及第二次健康保險審査會ヲ經テ通常裁判所ノ第一審ニ移ル

二　保險料其ノ他徵收金ニ關スル救濟

イ　第一次處分ヲ爲シタル保險官署又ハ組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ又行政裁判所ニ出訴ス（第八十一條）

ロ　前項ノ訴願ノ裁決ニ當リテハ夫々健康保險審査會ニ諮問スルコトヲ要ス（第八十二條）

三　滯納處分ニ關スル救濟（第八十四條）

地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴ス

四　健康保檢審査會ノ組織及審査ニ關スル必要事項ハ勅令ヲ以テ定ム（第八十三條）

第七　政府ノ事業ニ使用セラルヽ者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得（第十二條）

共濟組合

内務省社會局

共濟組合ヲ大別シテ官業共濟組合ト民業共濟組合ノ二種トス。官業共濟組合及民間共濟組合ノ規定ハ共ニ工場法及鑛業法等ノ扶助ノ規定ノ適用範圍以外ノ病傷其ノ他ノ災厄ヲ保險スルモノニシテ被雇傭者ハ之ニ依リ業務ニ基カサル不慮ノ災厄ニ因ル經濟上ノ負擔ヲ免カルルコトヲ得ヘク殊ニ官業共濟組合ノ規定ハ勅令其ノ他ニ依リ公布セラレ且健康保險法ノ給付ノ範圍ニモ包含セラレサル癈疾年金制度ノ設ケアルモノ多ク概シテ民間共濟組合ノ規定ニ比シ被傭者ニ對スル給付ノ程度高シ。

掛金關係ニ於テハ官業共濟組合ハ概シテ政府ノ負擔割合小ニシテ民間共濟組合ニ於テハ事業主ト被傭者トノ負擔ノ割合及方法多樣ニシテ事業主ト被傭者ト同額ノ掛金ヲ負擔スルモノ又ハ事業主ニ於テ一定ノ金額ヲ共濟組合ニ寄附シ之ヲ基金トシ之ト被傭者ノ掛金トニヨリ組合事業運用ヲ爲セルモノ多シ。

民間共濟組合ハ法律上ノ確實ナル存在ハ未タ之ヲ認メラレスト雖モ其ノ事業ノ運用困難ナルニ至リ爲ニ被雇傭者ニ損害ヲ蒙ラシメタルカ如キモノナシ若シ之ニ法律上ノ存在ヲ認ムルニ至ラハ近タ實施サルヘキ健康保險組合ト其ノ趣相似タルモノト云フヲ得ヘシ。

組合名	組合員ノ範圍	財源	給付	組合ノ管理及爭議解決機關
印刷局共濟組合	(一)甲種組合員 雇員以下ノ現業員 (二)乙種組合員 甲種以外ノ局員ニシテ印刷局長ノ承認シタル者	(一)政府ノ負擔 組合員給料總額ノ百分ノ二 年金ヲ給與スルニヨル政府ノ負擔 組合員ノ給料總額ノ百分ノ三以內 (二)組合員ノ掛金(一ヶ月分以下同シ) 甲種 給料月額百分ノ五 乙種 同 百分ノ九	一、公傷給與金 イ、公傷年金 甲、給料七ヶ月乃至九ヶ月分 乙、同 五ヶ月乃至七ヶ月分 ロ、公傷一時金 a. 給料 三 年 分 b. 同 二年分以內 c. 同 一年分以內 d. 同 一年六ヶ月分以內 e. 同 一年分以內 ハ、公傷療養金 相當額 二、癈疾給與金 イ、癈疾年金 甲、給料六ヶ月乃至七ヶ月分 乙、同 三ヶ月乃至五ヶ月分 ロ、癈疾一時金 甲、最高 給料 三年分 最低 同 六ヶ月分 乙、最高 同 二年分 最低 同 三ヶ月分 三、死亡給與金 給料一ヶ月分以上ニシテ加入年數ニ應シ半ヶ月又ハ一ヶ月分宛遞增ス 四、勤勞給與金 加入十五ヶ年以上ハ年金、其ノ他ノ場合ハ一時金トス(特症ノ場合ノ一時金ハ死亡給與金ニ準ス) 五、脫退給與金 掛金額ニ相當ノ利子ヲ附シタル金額 六、災厄給與金 イ、罹災見舞金	(一)管理 組合ノ事務ハ印刷局長之ヲ管理ス (二)爭議解決機關 評議會 印刷局長 印刷局部長 印刷局長ノ指定シタル十名 以上ノ局員

給料	三ヶ月以内
ロ、弔慰金	
給料	十日分以内
七、婚姻給與金	
給料	二ヶ月分
八、遺族給與金	
イ、遺族年金	
a. 公傷病死亡	
給料ノ	五ヶ月分
b. 其ノ他ノ場合	
本人ノ受クヘキ年金額ノ二分ノ一	
ロ、遺族一時金	
年金年年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル額ノ二分ノ一	
ハ、葬祭金	
a. 公務死亡	
給料	二ヶ月分

土木事業従業員共	
(一)甲種組合員	印刷局ノ組合ニ準ス
雇員以下ノ現業員	
(二)乙種組合員	
前記ノ現業員ニ非スシテ組合ニ加入シタル者又ハ甲種組合員タル資格喪失ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スル意思ヲ表示シタル者	〃
b. 其ノ他	
同	一ヶ月分
一、公傷病給付	
イ、障害年金	
a. 給料 六月分乃至八月分	
b. 同 三ヶ月乃至五月分	
ロ、障害一時金	
a. 給料 六月分乃至一年六月分	
b. 同 一月分乃至五月分	
ハ、醫療金 實費	
二、私傷病給付	
イ、癈疾一時金	
a. 給料 六月分乃至八月分	
b. 同 三月分乃至五月分	
ロ、特症一時金	
給料 三 月分	
ハ、休養金	
給料ノ二分ノ一 (一年度ヲ通シテ九	(一)管理
	組合ノ事務ハ內務次官之ヲ統轄シ土木局長、土木出張所長、土木試驗所長其ノ事務ヲ分掌ス
	(二)爭議解決機關
	審査會
	會長及審査員十名ヲ以テ之ヲ組織ス
	會長ハ內務次官ヲ以テ之ニ充ツ
	審査委員ハ內務省高等官及判任官中ヨリ內務次